

健康のひろば

—27—

地元の医師がアドバイス

—蓄膿(ちくのう)で通院加療していたのですが、ここ一、二年前から通院しないで様子を見ていたところ、最近になって鼻つまりがひどく炎症があるように思われ心配しております。

(十別市・四十九歳) 主婦) ☆
ひとの顔には図に示すように、左右対称に四つの副鼻腔があります。通常は空洞ですが、この副鼻腔に炎症がおきるのが、副鼻腔炎です。副鼻腔炎の原因

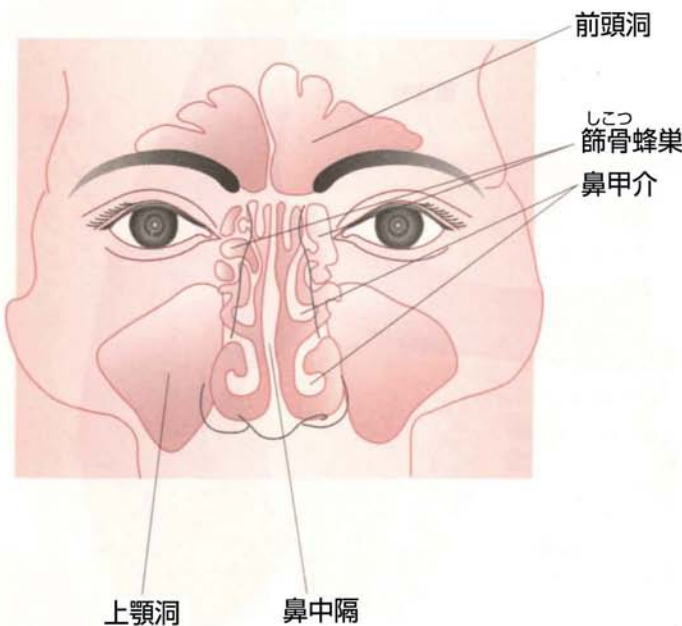
は、以前は細菌感染が多かったのですが、現在はアレルギーが多くなっています。歯が原因で副鼻腔をおこすこともあり、その場合、いやな臭いのする鼻汁が出てきます。

細菌感染が原因で副鼻腔炎をおこした場合、副鼻腔に膿汁が貯留し、いわゆる蓄膿症(ちくのう症)になります。現在、蓄膿症は副鼻腔炎全般をさしているように思います。副鼻腔炎には急性と慢性があり、急性副鼻腔炎の場合は、内服・鼻処置・ネブライザーなど、保存的治療により二〜三週間程度で治りますので、症状が一〜二年続いているということは、慢性化している可能性があると考えます。

慢性副鼻腔炎は、保存治療のみではなかなか完全には治りません。又、鼻茸(鼻内にできたポリープ)などができて、鼻閉をおこすこともあります。

慢性副鼻腔炎は、保存治療のみではなかなか完全には治りません。又、鼻茸(鼻内にできたポリープ)などができて、鼻閉をおこすこともあります。放置して時間が経過すると頭重感・頭痛・注意力散漫など、様々な症状が出てくることさえあります。病状が進行すると、手術治

図



療が必要になりますので、耳鼻科医を受診することをお勧めします。

※文章内の図については、『株式会社ツムラのパンフレット』より抜粋しております。

(医療法人臨生会・吉田病院院長・吉田肇)



鼻つまりがひどい